

【2024年2月 第27回 対面&オンライン講演会予定】

●2024年2月22日(木) 14:00~15:30

講師：陣内秀信氏(法政大学名誉教授、東京大学工学博士)

演題：「東京は世界に冠たる水都と言えるのか？」

【概要】

東京は、江戸以来、戦前まで「水の都市」の性格を誇った。その後、都市の近代化、産業化によって、下町・都心を巡る掘割・河川周辺も、埋立が進んだ東京ベイエリアも、水辺の魅力的な風景を喪失した。だが、70年代半ばから、水辺が再評価され、ウォーターフロント・ブームが到来した。しかし、バブル経済の崩壊とともに、東京の都市への関心は再び都心に戻り、世界の都市発展の傾向とは逆に水辺での未来に向けた動きは乏しい。本来、ユニークな優れた水都の資質を有する東京をいかに魅力的に再生することができるかを考えてみたい。

【講師略歴】

陣内秀信（じんないひでのぶ）

法政大学江戸東京研究センター特任教授

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了

イタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学、ユネスコのローマ・センターで研修。専門はイタリア建築史・都市史。パレルモ大学、トレント大学等の契約教授を務めた。中央区立郷土資料館館長、国交省都市景観大賞審査委員長他。

著書：

『東京の空間人類学』（筑摩書房、1985年）

『ヴェネツィア-水上の迷宮都市』（講談社、1992年）

『都市と人間』（岩波書店、1993年）

『水都学』全5巻（共編、法政大学出版局、2013-2016年）

『水都ヴェネツィア-その持続的発展の歴史』（法政大学出版局、2017年）。

『建築史への挑戦—住居から都市、そしてテリトリーオへ』（共編、鹿島出版会、2019年）

『都市のルネサンス—イタリア社会の底力』（古小烏舎、2021）

『水都東京—地形と歴史から読みとく下町・山の手・郊外』（筑摩書房、2020年）

『東京水辺散歩』（共著、技術評論社、2022年）

受賞歴：サントリー学芸賞、地中海学会賞、イタリア共和国功労勲章、建築学会賞、ローマ大学名誉学士号、サルデーニャ建築賞、アマルフィ名誉市民、ANCSA アルガン賞他。

<参加希望の方へ>

ZOOM を使ったのオンライン参加となります。

下記の URL をクリックするか、ミーティング ID とパスコードを入れて参加してください。視聴時は顔かお名前がわかるようにし、ミュートにしてご参加ください。なお、ホストの方で記録のため録画いたします。（当日、開会 1 時間前から終了まで公開）

参加 Zoom ミーティング

<https://zoom.us/j/96757908118?pwd=MW12dzZUanQvaU5NcWk4d3hTUU>

[hHUT09](#)

ミーティング ID: 967 5790 8118

パスコード: 237582